

午前11時08分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 皆さん、改めましておはようございます。新政会の春田新一でございます。

まず、市長、2期目当選本当におめでとございます。特に、この2期目は基幹産業である漁業と人口減少対策に力を入れて取り組んでいただきたいというふうに思います。この島に生まれてよかった、住んでよかったと思ってもらえるよう、継続して政策を進めていただきたいというふうに思います。市民に寄り添い、公約実現のために健康に留意され、市政運営に全力投球をされることを期待をしております。

それでは、通告をしておりました3項目について一般質問をさせていただきます。

まず、1項目めでございます。観光交流人口の拡大策についてということで、お尋ねをいたします。

現在、本市では韓国人観光客の激減に始まり、最近のこの新型コロナウイルス感染防止で、韓国からの入港も全便運休となっております。国内外から幅広く誘客をし、国際関係に左右されない足腰の強い観光産業を築いていかなければならないというふうに思います。

そこで、北部地域の自然を活用した滞在型観光の取り組みについてお尋ねをいたします。

殿崎周辺と三宇田浜の観光開発は整いつつあると思うが、観光客がもっと満足できて、1泊、2泊できる自然を活用した観光ルート整備が急務と思うが、上県では千俵蒔周辺の整備、北の玄関口上対馬では、豊砲台から韓国展望所付近の整備、また、三宇田浜から近場の舌崎等の整備の考えはないか、お伺いをいたします。

現在、北部では、宿泊施設は整って、受け入れ態勢は万全というふうに思います。観光客が時間をかけて遊ぶ場所、また、お金を使うところが少ないような気がします。

現在、本市では韓国観光客だけでなく、国内外の多くの観光客を呼び込む施策が本格化していると思います。観光産業に携わっている事業者の方々は国・県・市の支援はもちろんです、客を呼び込む努力もしてあると考えます。持続可能な観光地づくり、交流人口の拡大は決して楽な政策ではないと思いますが、産官民が連携をして、島の自然を活用したルート整備が今後望まれるが、市長の見解をお伺いいたします。

次に、2点目でございます。島の魅力を生かした多種多様な観光客受け入れということで、1点目とかぶるところがあると思いますが、経済や外交の変動に耐え得る島に転換することが対馬観光にとって得策であるというふうに思います。博物館観光振興法が制定されると報道されている。博物館、美術館といった文化施設を活用し、観光振興に向けて交通アクセスの改善などを

通じて、各地域を包括支援する振興法だというふうに思います。日本の文化や歴史を海外にアピールし、地方に外国人観光客、旅行者を呼び込む戦略の一つというふうに思います。

しかし、施設管理者や自治体、経済団体などが観光振興の計画を作成することが条件とも言われています。本市では、博物館建設が完成し、2工区が現在建設中であります。開館を2021年と見込んで工事が着々と進められているところでございます。本市の核となる博物館あるいは万松院周辺の整備も考えられるが、市長の見解をお伺いいたします。

次に、2項目めでございます。

本市の1次産業農林水産業の推進とその対策について。

1点目、持続可能な地域農業の今後の取り組みについてお伺いいたします。

本市の農地の持つ防災機能や景観・環境の保全、福祉、教育などの多面的機能の農業に変えていく必要があるというふうに思うが、行政、農家、市民の協働による農地及びその周辺環境の一体的整備と利用の仕組みを工夫していくことが求められている。

本市では高齢化が進み、既に雑種地化している農地、あるいは、耕作放棄されているところが多く目立つが、貴重な地域資源として位置づけ、それを体験型農園や学童農園、福祉農園などに活用し、また、産学官民連携で郷土食などの食文化の保護・継承とともに、食文化を生かした加工、料理を行う人材の育成も積極的に行い、食文化を生かした地域づくりが求められています。

また、対馬は古くから半農半漁等複数の稼業で生計が立てられてきたと今は思い浮かべます。昨年11月には、過疎地雇用増を目指し特定地域づくり協同組合という新法が議員立法で成立をしています。この新法は、働き口を確保することで、過疎地の若者が都市部に流出することを防ぐとともに、移住者をふやすのが狙いということで報道されております。

この対馬では、島おこし協働隊、あるいは外部支援員等が組合で働き、定住することも期待がされます。本市にとってふさわしい新法だというふうに思いますが、全体を通じて市長の見解をお願いいたします。

それでは、2点目です。漁業環境の悪化を重視した水産業の活性化策について。

先ほど申しましたように、古くから対馬は半農半漁等複数の生業で生計を立てられていました。時代は昭和、平成、令和と変わる中、本市の基幹産業である漁業も、親から子、子から孫へと伝わっていくものと思っておりましたが、いつの時代からか若者の流出が始まり、漁業者の減少や従事者が高齢化になり、年々水産業が衰退をしていく現状であります。

そのような現状から地域漁業者はもちろん、行政、漁協が一体となり、漁業者の育成・確保に向けた新たな支援策が打ち出され、水産業の活性化に取り組まれているところでもあります。漁業者の所得向上につながっていないのが現状であるというふうに思います。マグロの規制から始まり、海面漁業のイカ釣り漁は、ここ3年ぐらい前から陸揚げ量が半減をしております。後継者ど

ころか、イカ釣り漁業者は日常の生活もままならない状況だと考えます。これ以上不漁が続くと島外へと移り住むことにもなります。国、県の財源を柔軟に活用した支援策はできないか、お伺いをいたします。

次に、3項目めです。

心を潤す芸術・文化の取り組みと今後の振興策について。本市の郷土芸能、地域の保存と継承の今後の支援策についてお伺いをいたします。

対馬各地の盆踊りや民謡を一堂に披露する対馬島郷土芸能発表大会が29回目のこととして最後というふうには報道がなされました。人口減少が進み、地域を支える担い手の確保や後継者不足が課題であると思うが、地域の芸能を絶やさないためにも、後世へ伝えていくためにも手厚い支援が重要と考えるが、教育長の見解を伺います。

それから、2点目です。これも1点目とかぶるところがあるというふうに思います。

郷土芸能・伝統文化学習及び若者の育成支援策についてお伺いをいたします。

こどもたちが郷土の魅力を知り、郷土を愛する児童生徒の育成はもちろんのこと、そのことが中高生の島外流出を少しでも食い止められるよう、保護者、地域の方々の理解で、こどもたちが伝統文化の魅力や継承の必要性を感じることができる支援策が求められるが、教育長の見解をお尋ねをいたします。

以上、3項目、よろしくお伺いをいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 春田議員の御質問にお答えいたします。

初めに、観光交流人口の拡大についてでございますが、まず、1点目の北部地域の滞在型観光については、北部地域の観光を考えますと、自然を活用した滞在型観光は非常に重要なことだと認識しております。そのため、現在、三宇田では三宇田浜園地リニューアル事業を進めており、今年度は管理棟の再整備、また、次年度以降はキャンプ場及びデイキャンプ場の再整備を予定しております。観光客のニーズが高いキャンプ施設を時代に即したものに改修しているところでございます。

また、舌崎は放牧地として利用していた経緯があり、地形的に人の出入りが管理しやすく、周囲の磯はよい釣り場であることなどがありまして、地権者の同意がいただければ、観光資源として非常にポテンシャルが高いものと思っております。

また、千俵蒔山につきましても、珍しい風景を有する山で、あじさい祭りのときにはパラグライダー大会も行われており、現在の状況を維持しながら、魅力ある観光地の一つとしてPRしていきたいと思っております。

それぞれ潜在的な魅力を持った地域であり、活用を検討することは非常に重要なことだと認識

しております。

そのため、誰が、どのような形で活用するのがベストなのか、地域の住民の方の意向はどうか、あらゆる面から検討していく必要があると考えております。

また、宿泊施設につきましても、三宇田浜には冒頭に説明いたしましたキャンプ場や三宇田ペンション、そして、昨年オープンした東横インホテルがあり、舌崎入り口近くにはスロースグランピングという宿泊施設があります。現在は、韓国人観光客の激減で停滞しているものの、北部地域の宿泊所の事情はかなり充実していると思われま。

あわせて、対馬の野生生物保護センターやそば道場といった施設ともマッチングさせながら、北部地域の滞在型観光の充実・振興を図ってまいりたいと考えております。

2点目の島の魅力を生かした多種多様な観光客の受け入れにつきましては、御存じのとおり、対馬の魅力は歴史と自然であります。中でも、対馬の歴史は大陸との交流の玄関口として、他の地域にはない稀有な歴史がございます。このような対馬の歴史を学ぶ上で最高の施設となるのが、来年の春にオープン予定の対馬博物館ではないでしょうか。また、その周辺には万松院を初め旧金石城庭園や、徳恵姫の御成婚記念碑、櫓門といった歴史的観光施設が密集しており、あわせて、(仮称)朝鮮通信使資料館も整備を進めているところでございます。

議員が御指摘のとおり、国内客を中心に多種多様な観光客を呼び込むためには、対馬の歴史を前面に打ち出し、お船江や武家屋敷エリアもあわせて、江戸期の城下町歴史観光ルートの確立が重要だと考えております。

その観光ルートをより深いものにするためには、その歴史を語れるガイドの養成も非常に重要となります。歴史の裏話やエピソードを交えることにより、より深いものとして刻み込まれ、対馬の思い出が全く違ったものになるからでございます。2月20日の専決予算で、ガイド養成の予算をつけさせていただいております。将来的にはガイドシステムの導入も視野に入れながら、ガイド養成事業を進めてまいりたいと考えております。

また、今話題の金田城や姫神山の砲台跡、万葉集の碑といった多様な歴史マニアを取り込むPR活動を、観光物産協会とともに行っており、その整備を進めております。

同時に、教育委員会のお声かけによりまして、小中学校でも対馬の歴史を学ぶ時間を大きく割いていただき、郷土の歴史に深い関心を持つようにさせていただいております。毎年秋には、対馬の歴史講座も開催しております。市民の皆様一人一人が対馬の歴史の発信者になっていただきたいと考えております。

次に、農林水産業の推進とその対策についてでございますが、議員御指摘のとおり、農業・農村の有する多面的機能につきましては、防災を初めとして多岐にわたり貴重な資源であると認識しております。

また、本市では、農業、その他の産業につきましても高齢化が進み、あわせて後継者不足が深刻であり、耕作放棄地が増加している状況であります。さらに、伝統的な食文化を継承した対州そば、いりやき、石焼、ろくべえなどの郷土料理につきましても貴重な財産であり、観光資源の一つであると考えております。

また、水産業の現状としましては、漁場環境の変化による漁獲・資源量の減少はもとより、海水温の上昇や漂着ごみ、特に海中にとどまるプラスチック系ごみによる漁業への影響も不安視されており、魚介類の食害による藻場の衰退も年々進行するなど、多くの課題が山積しております。

まず、本市における耕作放棄地の対応といたしましては、農地中間管理事業などを活用して鋭意取り組んでおりまして、今後も継続して推進してまいります。

また、伝統食の継承に関して、対馬市としましては、そば生産出荷奨励事業の実施により、対州そばの振興を図っております。しかしながら、令和元年は大雨等による被害により収量が大幅に減少したため、さきの1月の臨時会で議決いただきました対州そば振興対策事業により耕作放棄地の解消を含め、さらなる対州そばの振興を図っていくこととしております。

現在、体験型農園や学童農園的な役割を担っているのが、対馬グリーン・ブルーツーリズム協会が行う農林漁業体験民泊でありまして、また、福祉的な農園としましては、民間主導で行っております高齢者の生きがい対策の場として、遊休農地を活用した厳原町久田地区のアグリパーク及びその後、アグリパークの活動を参考にして立ち上げられた豊玉町貝口地区の貝口ビアパークがございます。

続きまして、水産業についてであります。海水温の上昇や食害の拡大等の複合的要因によると思われる磯焼けの進行が顕著であり、対馬中央部東海岸の一部を残して、ほぼ壊滅状態となっており、藻場の回復が喫緊の課題となっております。

加えまして、漁業就業者の安定確保も大きな問題となっており、今後は外国人による技能実習及び特定技能取得者の積極的な雇用の必要性が高まるものと思われま。

このような厳しい漁業情勢の中で、歴史的に不漁が続いておりますスルメイカにつきましては、魚種ごとに年間の漁獲可能量を定め、水産資源の適切な保存・管理を行うための漁獲可能量制度の対処魚種とされております。令和元年度の資源強化においても、減少傾向であると評価されており、早急な資源回復は見込まれにくい状況であると考えられますので、各自治体、漁協組合長会等と連携を図りながら、国へ早急な原因究明等につきましても働きかけてまいります。

また、クロマグロ養殖についても、稚魚の安定供給や餌の高騰対策が課題となっております。現在、交付金事業において藻場の回復を目的とした食害魚駆除を積極的に推進しており、現在、一部事業者で検討されております未利用魚のクロマグロ事業への有効活用についても知見を集積し、事業間連携を強化しながら、さらなる駆除の促進と相乗効果向上につながるよう検討してま

います。

機焼け対策につきましては、駆除促進を加速させるために積極的に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 春田議員の御質問にお答えします。

初めに、郷土芸能の保存と継承の今後の支援策についてでございますが、皆様既に御存じのこととは思いますが、平成3年度から毎年開催されておりました対馬島郷土芸能発表大会が、昨年11月の第29回大会をもちまして終了の運びとなりました。

29年間続いてきた本大会は、正調しんき節全国大会や陽気節コンクールも同時に開催され、対馬の伝統文化の保存・継承活動に大きく寄与してきましたが、関係者の高齢化や若者の減少による後継者不足のため、惜しまれながらも大会終了の決定に至ったようです。

対馬市の郷土芸能関係では、厳原の盆踊り、美津島の盆踊り、命婦の舞が国の記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財に選択されております。現在でも地域の行事として盆踊りを継承している地域が5地区残っております。これらの地域の盆踊りを対馬の盆踊りとしてさらに高いレベルで保護していけるよう、国の重要無形民俗文化財への指定を目指しているところであります。令和2年度はその準備を進めていく予定です。

また、昨年の3月には、対馬島郷土芸能保存会の会長を教育委員会表彰いたしました。先日開かれまして教育委員会において、今年度は曲郷土芸能保存会の指導者を教育委員会表彰として議案を可決されましたので、この場をおかりして御報告申し上げます。

次に、郷土芸能・伝統文化の学習や若者の育成支援についてでございますが、教育委員会の文化財課、学校教育課、生涯学習課が協力して、その継承に努めていく所存です。既に令和2年度事業の計画策定において、小中学校での学校行事やふるさと学習の中での伝統文化への取り組みや、地域の公民館活動の中での育成・継承を、関係各所に要請をしております。

教育委員会といたしましては、今後も対馬島郷土芸能保存会の活動を支援し、こどもたちの郷土学習や郷土愛の醸成、後継者の人材育成に力を入れていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 答弁ありがとうございました。

それでは、順を追って簡潔に整理をしてみたいと思います。

まず、観光交流人口の拡大策について、市長のほうから答弁がございました。

上対馬では、北部のほうでは、やはり三字田を核とした観光ルートができ上りつつありますが、まだまだその自然を活用してやるところがいっぱいあります。そういうところで観光客が時間を過

ござれて、1泊、2泊というようなところをもう少し整備ができないかということの質問でございます。

まず、豊砲台から鱈浦の韓国展望所、この上を行きますと、今、作業着では行けるような状況ですが、観光客が歩いていけるようなところではないのじゃないのかなというふうに思います。そこを少し木の枝とか、そういうものを伐採していただければ、またまた海栗島あるいは三ツ島、そういうところが見えて、観光客もそこを灯台から展望所まで、また、展望所から砲台までというようなルートの整備ということでお伺いしております。

そう予算もかかる場所じゃありませんので、上の展望所から下がっていける場所。今は少し道路はありますが、そこが観光客が通行できるような道路にしていきたい。

そしてまた、豊砲台についても、頂上をきれいに整備をしていただいて、観光客がそこでいろいろなものを見ていただくところにしていただきたいというふうに思っております。

それから、戻りますが、千俵蒔山です。私も2回質問しました。大浦議員さんも何回か質問をされました。なかなか難しく、道路の問題も解決をしないでそのままの状況であります。

難しいところは難しいんですが、やはり北部の中でもその千俵蒔というところは非常に観光客にとっては素晴らしい景観のところですので、そこら辺も北部の一つの目玉として整備をしていただければ、ヤマネコセンター、バードウォッチング、そういうところも一緒に含めて、観光客の方が巡回をされて、対馬に来てよかったと言われるような、そういうふうなところを整備をしていただきたいというふうに思っております。

あと、舌崎についてですが、先ほど市長のほうからも答弁がありました。東横インがオープンをいたしましてから、非常に観光客の皆さんが時間前に少し海岸におりたり、外を眺めたりして、ああ、眺めが、風景がいいところですねというような話も聞きます。

今、出ておりますが、東横インが中央に建物が見えて、この右側の山、島じゃありませんので、山、陸続きの山です。ここを、これは行政側にこれを観光地に全部しなさいじゃなくて、先ほども市長が言われましたように、民間と手を合わせてやっていくにはどうしたらいいか。そこをもう少し深く入っていただいて、民間のほうで、これも地権者との話も平成30年でしたか、7名の皆さんと協議をされております。その観光に使われる部分については、出席をされていた方々は、いいですよ。しかし、魚釣り、磯場を荒らすようなことになるよとだめですよというふうな話も出ておりましたので、そこら辺を、福岡であります能古島、花がいっぱい植わっております。そういうような感じに変えていって、あと、対州馬の放牧。もともとこの舌崎は牛の放牧がされておりましたので、そういう面からは、対州馬を放牧して観光客に見てもらおう。また、馬に乗ってもらおうというようなところでは、素晴らしい景色のいいところじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺を、予算を余り使わないで、民間と一緒にやってつくり上げていただ

きたいというふうに思いますので、民間の方々も自分だけでやっていくのは大変でしょうから、そこに行政側が何の支援ができるかということをいろいろ協議をしながら、お互いに地域一体となってこの観光地づくりをしていかなければいけないなど。もったいないところですから、そういうふうに私は考えて質問をいたしました。

今、私が言いましたように、地権者との協議もしていますということと、民間で何かを立ち上げろという考えがありますということについて、市長のほうから1回答弁をいただきます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、1点目の韓国展望所から豊砲台跡までのこの遊歩道の整備ということでございますけども、確かに近年この遊歩道につきましては、管理がちよっとされていないのかなというような思いを私も持っております。以前は、このように鹿とかイノシシがいない中で、この豊砲台の先の園地までも遊歩道をきちっと整備をしておりましたので、ここにつきましては、再度検証の上、今後整備に取りかかりたいというふうに思います。

次に、千俵蒔の観光開発についてということで、このことにつきましては、これまでも多くの御指摘等をいただいているところでございますが、なかなか用地等が難しいような状況でございました。

そういう中、私も海上保安署の方だと思いますけども、私は、対馬の中では千俵蒔が一番好きですというような方もいらっしゃいました。

そういうことで、あそこにもちよっと道路等の計画も考えているんですが、という話もしていたら、決してそういう道路はもうつくってくれるなど。あのままが一番いいんですと。私はあのまま一番好きなんですと、そういう方もいらっしゃいましたし、ここにつきましては、慎重に自然を壊さないような形での整備を今後考えてまいりたいと思います。

そして、3点目の舌崎の観光地化についてでございますが、これは民間の主導ということであるということでございますが、先ほど議員も御指摘されておりましたように、ここは以前から牛が放牧されたところで、ゴルフ場開発にも適したところではないかというようなことで、いろいろな計画がございました。

そういう中、特に漁業者の方が一番心配されておりますのが、密漁対策ということでございますので、冒頭、私も答弁のほうでさせていただきましたように、地域の方々と膝を突き合わせながら協議を重ねてまいりたい。その上で、行政で支援できる面につきましては、支援をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

今、民間の方々と協議をしながらということで、今回私が冒頭に申し上げました、市民に寄り添いながら、やさしい政治を目指してもらいたいというふうに思います。

市長の答弁はよくわかりました。先に民間の方々が進められることについて、できる限りの支援をしていこうということでございますので、また、少し一歩先に進むんじゃないかなというふうに思いますし、また、韓国展望所から砲台跡地につきましては、現地を確認されて、遊歩道で回られるような現況にさせていただければというふうに思います。

それから、2点目ですけど、2点目は、先ほど市長が申し上げましたように、私もこのことについては、巖原のほうですから余力は入れませんが、多種多様な観光客を受けるためには、やはり大きな博物館あるいは観光地になるところを御来場になられるんですから、そういうところに、万松院、博物館、そこら辺をもう少し整備をしていただいてももらいたい。

まだ、博物館も完成はしていませんので、駐車場とか、そこら辺もまだ今から出てくるんじゃないかなというふうに思いますが、そこら辺に力を入れて、この多種多様な観光客を受け入れる体制を万全にさせていただきたいというふうに思います。

それから、2項目めです。

持続可能な地域農業の今後の取り組み、対策についてということで、市長のほうからも答弁はありましたが、やはり峰から下地区については、農地中間管理機構さんが入られて、貸し手・借り手ということで非常に進んでおります。しかし、上地区につきましては、まだまだそこら辺が進んでいないような状況と、また、その借り手が少ないというところもあるんじゃないかなというふうに思います。

そこで、この農業も新規参入者と、先ほど市長も言われましたように、そういうところから受け入れ体制をしていけばどうかというふうに思いますので、また、そこら辺で話が来るようになれば、何かの支援をしていただきたいということで、このことについても終わります。

それと、食文化についても、対馬でできたものを加工、そして食べるというようなところまで持っていけるような農業にしていけばというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

それから、2点目です。この漁業環境の変化を重視した水産業の活性化策ということで、市長のほうも話がありました。

これについては、国境離島新法あたりでかなりの予算計上もなされております。しかし、ここ近年、陸揚げ量、水揚げ量が、各組合非常に落ち込んでおります。ここをどういうふうにするか、行政にそれを言ってもどうしようもないかもわかりませんが、この国境離島新法で組まれておる事業について、私も実績を確認いたしました、非常にいい実績が出ております。まだまだ対馬の漁業者にとっての予算を確保しなければいけないんじゃないかなというふうにも思いますし、この漁業不振に入ったところを柔軟にこの予算の編成をしていただきたい。ということが大事に

なってくるんじゃないかなというふうに思います。

全体的にそうなんでしょうけど、特にこのイカ釣り漁は今不漁で、もう船も手放さなければいけないというような状況のところまで追い込まれておりますので、そこら辺も、漁業者の皆さん、そして浜の皆さん、組合の皆さんと漁協の皆さんと一緒に、膝を交えて話をしながら取り組んでいただきたいなというふうに思います。

それでは、3項目めに行きます。

心を潤す芸術・文化の取り組みと今後の振興策についてということで、教育長から答弁をいただきました。

私が質問をするのは、29回目で最後ということで、これは市長のほうにもお伺いをしたいと思いますが、非常に保存会の皆さんの高齢化ということで、世話人が少なくなったということが中止の要因じゃないかなというふうに思います。

しかし、これをこのまま、今まで続いてきた伝承芸能大会を切るということじゃなくて、続ける方向で、どういう方向に持っていけば続けられるのかということも一つは、みんなで考えていかなければいけないのではないかなというふうに思いますが、先ほど、教育長のほうからも答弁はありました。そういうことで、非常に厳しい、難しい問題になりますが、これを絶やすようなことになれば、やはり地元対馬を売りには出されないようになりますので、ここら辺も観光ともつながりますので、非常に重要じゃないかなというふうに思います。

教育長のほうから答弁がありましたので、市長のほうにそこら辺の、どのようにして続けていられるのか。29回で終わるのを30回はどういうふうな形で持っていこうと考えてあるのか、考えだけを述べていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この郷土芸能の存続につきましては、私たちもこの29回で終わるんじゃないかって、せめて30回、切りのいいところまではお願いしますというような、そういう話もしていたんですけども、なかなか、先ほど、春田議員さんのほうからも話がございましたように、後継者等不足ということで断念されたということでございます。

ただ、この前も会長さんとお話をさせていただきましたけども、やはり終わってしまうと寂しい面があるというようなことでございます。そういうことで、我々も行政としてしっかりとバックアップもしていけないといけないというふうに思っておりますが、これが29回で終わるんでなくて、また、時にいろいろ計画をしながら、毎年じゃなくてもいいですと。数年に一度でもいいですから、ぜひこの郷土芸能の継承のためにもこの保存会の存続、そして、大会等をお願いしたいということで申し入れております。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

この心潤す、ですから、やっぱり国内からの観光客の皆さんは、対馬の人はいい人柄ばっかしですね。こういうのがつながってきているふうに思うんです。これをやっぱりここで切るということじゃなくて、高齢化している中ではありますが、やはりそれを継続してやっていけるような組織をがっちりつくっていかなければ、できないと思いますので、教育長も大変でしょうが、市長も今、答弁がありました。そういうことを一緒に、力を合わせてまだまだ続くように、そしてまた、対馬の伝承芸能は素晴らしいと言われるようなところまで持っていくように、努力を重ねていただきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

それから、その2点目でございます。郷土芸能、伝統文化学習及び若者の育成ということで、これもその伝承芸能につながって、若者、学生を、学生時代からそういうことをやっていけば、やはり魅力や継承の必要性を感じさせることができるように育成をしていかなければいけないというふうに思うし、また、これが子どもたちにわかって、対馬はよかったと、島外に流出することなく、子どもが残っていけるようにしていかなければいけないと思います。

で、私が1つ紹介をしたいのが、この上対馬太鼓保存会、これは今、部長がおられますが、舟志の太鼓保存会がそのまま残されて、言われるように、高齢化になり若者がいないということで、太鼓保存会は舟志の太鼓保存会から変わったと。子どもたちに変えていったというような状況であらうかというふうに思います。ここが、県の大会、それから国の大会にも出場しております。

このようなことが対馬の売りにもなりますし、子どもたちの本当の経験にもなります。

で、今のこのコロナの件で子どもたちも家庭で残っておりますが、やっぱりそういうようなところが、この協調性、そういう子どもができていくんじゃないかなと。小島議員のほうからもお褒めの言葉がありました。そういうようなところを各方面から、国内外から認めていただけるような子どもたちの教育をしていかなければいけないし、また、保護者と地域の皆さん方と一緒に、子どもたちのこういうふうな伝承芸能は続けていかなければいけないと思いますが、教育長、そこを1点、教育長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 私も後継者不足というのは非常に悩んでおりますけれども、即それが解決できるかという、そういう問題じゃありませんので、子どもたちにこの伝統芸能をできるだけ体験をさせながら、子どもたちの健全育成につなげていけたらなというふうに思っております。

現在でもその舟志の太鼓に限らず、ほかの学校でも太鼓、それから盆踊り等を教育課程の中でやっておりますので、今後ともそれが継続できるように支援をしていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

その中身にちょっと入りますけど、太鼓かっちえる、上対馬で活動しておられるかっちえるでございますが、やっぱり先ほど言いましたように、舟志の太鼓保存会を継続して、こうやっていかれる。これは地域の皆さんの力の賜物というふうに思いますが、そこに支援はしてあるというふうに思いますが、これが県とか、全国大会とかになればそういう予算がかかると思うんですが、そこら辺を夢づくり基金で出していただいて、思う存分に子どもたちが対馬を売りに出せることをやる予算措置をしていただきたいなと思いましたが、教育長、難しいでしょうけど、そこをもう一回お願いします。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 現在も夢づくり基金のほうから支援をしておりますし、今後ともその県大会、全国大会に行く場合には、きちんと支援をしていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 予算の特別委員会でも、私少しお尋ねをいたしました。まず実績が3月末にならないとわからないということで、どのぐらいの予算を使われているかというのがまだわかっていないんですが、地域で寄附を募ったり、いろいろしてあるんです。かなり太鼓というのは道具が多いから、そこら辺も含めて再度検討していただきたいなというふうに思って、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

.....
○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。再開を午後1時ちょうどといたします。

午前11時56分休憩

.....
午後0時58分再開

○議長（小川 廣康君） それでは、再開します。

午前に引き続き市政一般質問を行います。2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 初めに、市長におかれましては、先月の御遊説、大変お疲れさまでした。難題が山積しているとは存じますけれども、一つ一つ解決に向けて取り組んでいただきたいと思えます。

さて、本日は、1点目に成年年齢引き下げに伴う本市の成人式典の考え方について。

2点目は、市立幼稚園の現状と幼稚園・保育園との連携型機能についてお尋ねをいたします。

初めに、2年後の2022年4月、民法改正により成年年齢が18歳に引き下げられます。こ